

## 日向灘の沿岸資源評価結果について

### —資源部—

今年度で第9回となる宮崎県資源評価委員会は、8月8日に水産会館の5階大研修室で開催され9種（新規2種）が評価されました（表1）。ここでは、重点的に資源管理を推進している「アマダイ類」「イセエビ」「マダイ」及び新規種の「スズキ類」「ウシノシタ類」の評価結果の概要を示します。

- 注1) A、B、C、Dは使用した情報の質や量のレベル
- 注2) 高位、中位、低位は資源レベル
- 注3) 増加、横ばい、低下は直近5カ年の資源量指標値の動向
- 注4) CPUEは1日1隻当たりの漁獲量（kg/日/隻）

表1 第9回 資源評価委員会の結果

種類	2019年	
1 アマダイ類	B	中位・増加
2 カサゴ	A	中位・増加
3 チダイ	B	中位・増加
4 ヒラメ	A	低位・減少
5 イセエビ	C	低位・横ばい
6 コウイカ類	B	低位・減少
7 マダイ	C	中位・横ばい
8 ウシノシタ類	B	高位・増加
9 スズキ類	B	高位・横ばい
計 9 種		

### 1 アマダイ類



写真1 水揚げされたアカアマダイ

**【2018年の漁獲状況】**  
 漁獲量：13.4トン  
 漁獲金額：23百万円  
 平均単価：1,742円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「中位」  
 資源の動向：「増加」

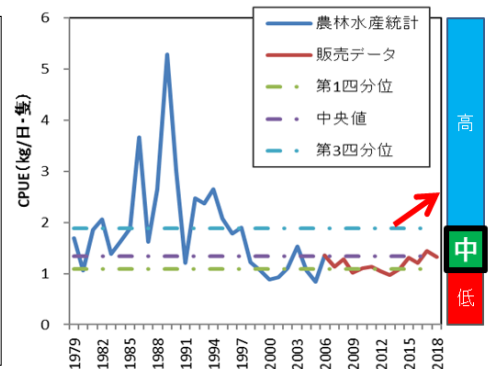


図1 その他の延縄漁業の資源量指標（CPUE）の推移と動向

#### 【委員会の提言】

近年は資源増加期に入った可能性が高く、今後も再生産成功率の高い状態が継続すれば、資源の増加につながることから、親魚量・加入量の確保が重要である。

### 2 イセエビ



写真2 水揚げされたイセエビ

**【2018年の漁獲状況】**  
 漁獲量：53.6トン  
 漁獲金額：270百万円  
 平均単価：5,042円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「低位」  
 資源の動向：「横ばい」

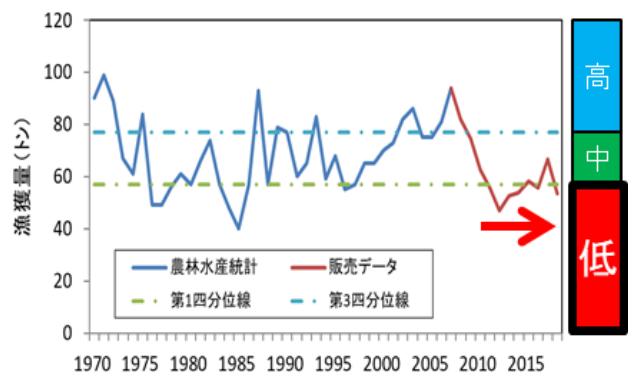


図3 資源量指標値（漁獲量）の推移と動向

#### 【委員会の提言】

加入量増大及び生残率向上のための藻場造成や代替物の検討・設置や、資源の効率的利用方法として小型個体の再放流による漁獲サイズの拡大を促す措置が考えられる。

## 3 マダイ



写真3 水揚げされたマダイ

**【2018年の漁獲状況】**  
 漁獲量：70.4トン  
 漁獲金額：63百万円  
 平均単価：889円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「中位」  
 資源の動向：「横ばい」

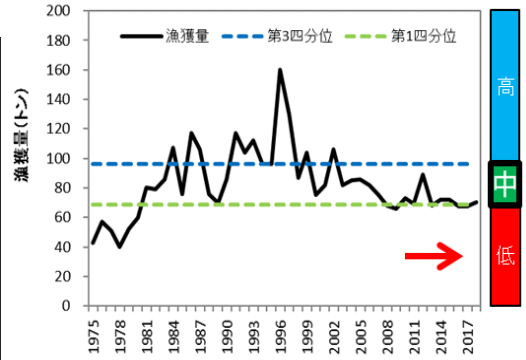


図4 資源量指標値（漁獲量）の推移

### 【委員会の提言】

近年の本県海域はマダイの生育環境として好適であるとは言いがたいため。地先での再生産状況や環境変化等をモニタリングし、人為的に資源回復が望める機会を把握することが重要である。

## 4 ウシノシタ類

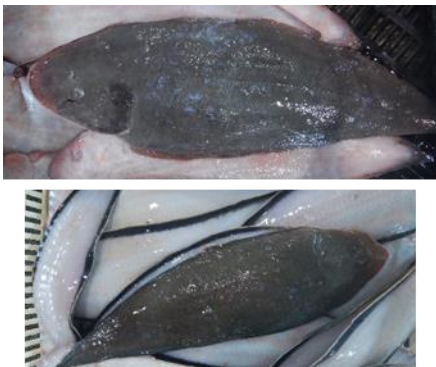


写真3 水揚げされたウシノシタ類  
 (上：オオシタピラメ、下：クロウシノシタ)

**【2018年の漁獲状況】**  
 漁獲量：19.7トン  
 漁獲金額：15百万円  
 平均単価：779円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「高位」  
 資源の動向：「増加」

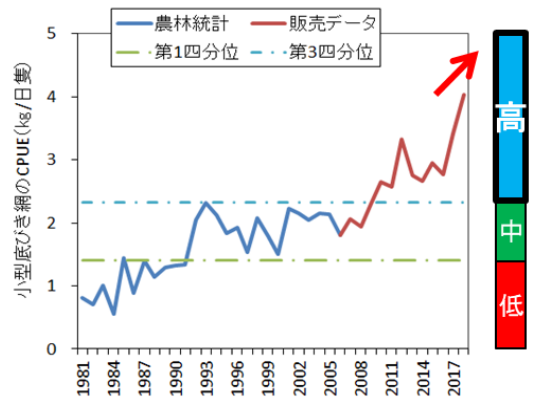


図4 小型底びき網漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

### 【委員会の提言】

小型魚を含んだ漁獲サイズや種組成の把握など、継続したモニタリングが必要である。

## 5 スズキ類



写真3 水揚げされたスズキ類  
 (上：スズキ、下：ヒラスズキ)

**2018年の漁獲状況**  
 漁獲量：16.4トン  
 漁獲金額：13百万円  
 平均単価：802円/kg  
**【評価結果】**  
 資源の水準：「高位」  
 資源の動向：「横ばい」



図4 小型定置網漁業の資源量指標値（CPUE）の推移と動向

### 【委員会の提言】

スズキ類は、中長期的な資源変動をするとされており、今後は資源の減少が危惧されることから、生態情報や漁獲実態の把握など、今後も継続的にモニタリングする必要がある。

今年評価した各種の詳細は、宮崎県水産試験場 HP (<http://www.mz-suishi.jp/>) に掲載しております。